

1 災害からの創造的復興ウィーク

大阪・関西万博の開催期間中(令和7年4月13日～10月13日)、国際博覧会協会が実施する「テーマウィーク」に連動し、兵庫県独自のテーマウィーク「ひょうご EXPO week」を展開した。協会が設定するテーマに加え、兵庫ならではの独自テーマの1つとして、「災害からの創造的復興ウィーク」を設定した。期間中にイベントを集中的に開催した。

1 事業概要

(1) 名称

災害からの創造的復興ウィーク



(2) 実施期間

令和7年9月15日(月)～9月21日(日)

(3) テーマ

将来の災害に備えると共に、災害前よりもより良い社会へと復興するにはどうすべきか？

2 ウィーク期間中のイベント

日程	名称	主催者	場所
9月12日～9月14日	兵庫芸術文化センター管弦楽団 第162回定期演奏会	兵庫県立芸術文化センター	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール
9月15日～9月21日	豊岡復興建築群スタンプラリー	但馬県民局	豊岡駅前の大開通り、 元町通り、宵田通り周辺
9月15日～9月21日	震災30年特別企画 2025「震災伝承 の30年(これまで)と未来(これから)」	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
9月15日、 9月18日～9月21日	電動車両による災害時給電デモ	兵庫三菱自動車販売株式会社 神戸本店営業所	兵庫三菱自動車販売株式会社 神戸本店営業所
9月17日	国際防災・人道支援フォーラム 2025 II (DRA フォーラム)	国際防災・人道支援 フォーラム実行委員会	神戸ポートピアホテル
9月18日	令和7年度災害時要援護者支援研修会	公益財団法人 兵庫県身体障害者福祉協会	兵庫県福祉センター
9月19日	木造住宅の耐震リフォーム達人塾	まちづくり部建築指導課	兵庫県私学会館大会議室
9月20日	ひょうごから広げる創造的復興と減災のメッ セージ：阪神・淡路大震災30年を超えて	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科	兵庫県立大学 神戸防災キャンパス
9月20日	ALL HAT2025 (第10回 HAT 神戸防災訓練)	第10回 HAT 神戸 防災訓練実行委員会	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
9月20日	創造的復興サミット	危機管理部防災支援課	神戸ポートピアホテル

3

関西パビリオン兵庫県ゾーンでの展示 (9/15 ~ 9/18)



会場展示(全体)



ショーケース展示内容

2 創造的復興サミット

次なる災害に備えるため、国内外の被災自治体や関係機関などが一堂に会し、創造的復興の理念について討議する「創造的復興サミット」を開催し、共同宣言として「創造的復興の理念を繋ぐひょうご宣言」をとりまとめた。また、関連イベントとして、「高校生・大学生による活動報告会」および、サミット参加者の「エクスカージョン」を実施し、創造的復興への取組を国内外へ発信した。



【開催概要：創造的復興サミット】

1 日時・場所

令和7年9月20日（土）12:50～17:00
神戸ポートピアホテル「偕楽」の間

2 プログラム・内容

(1) オープニング合唱「しあわせ運べるように」（神戸市立御影北小学校合唱部）
（※歌と手話で震災の経験と教訓を今に伝える）

(2) 主催者挨拶

齋藤 元彦 兵庫県知事

(3) ビデオメッセージ

坂井 学 内閣府特命担当大臣（防災）

(4) 高校生・大学生による次世代の行動宣言

【発表者】森田 寧々（兵庫県立舞子高等学校1年）、向笠 祥史（宮城県多賀城高等学校2年）、
中村 輝人（石川県立輪島高等学校3年）、石塚 碧土（神戸学院大学3年）、
島田 都羽（兵庫県立大学3年）、佐藤 稜真（東北学院大学3年）

【主な内容】

・国内6校の学生20人が参加し、災害の経験と教訓を「世代・地域を超えていかに継承していくか」について議論し、各校代表者が行動宣言を発表。

<次世代（自分たち）の行動宣言>

- ・次の世代に残す
- ・より安全なまちをつくる
- ・自分事として想像力を育てる
- ・防災教育を充実させる
- ・被災地と関わり続ける

(5) 国内参加者による発表・意見交換

【発表者】齋藤 元彦（兵庫県知事）、久元 喜造（神戸市長）、吉村 祐一（新潟県大阪事務所長）、大畑 光宏（岩手県復興防災部長）、伊藤 哲也（宮城県副知事）、佐藤 仁（南三陸町長）、天野 淳（福島県大阪事務所長）、杉岡 誠（飯館村長）、木村 敬（熊本県知事）、西村 博則（益城町長）、馳 浩（石川県知事）、金田 直之（珠洲市副市長）、松本 正義（関西経済連合会会長）、川崎 博也（兵庫県商工会議所連合会（神戸商工会議所）会頭）、木村 出（国際協力機構関西センター所長）、澤井 麻里（国際防災機関（UNDRR）

政府間プロセス機関間協力及びパートナーシッププログラム管理担当官)、三日月大造 (関西広域連合広域連合長)

【主な内容】

- ・参加団体それぞれの創造的復興や復興支援の取組について発表。
- ・創造的復興にはコミュニティの絆や人々の助け合いが重要であることを再認識した。
- ・被災してしまったふるさとへの愛着や誇りが復興の原点であり、立ち上がろうとする住民の力強さが新しい価値を創造することを共有した。

(6) 海外参加者による事例紹介

【発表者】 ミュケッレム・ウンリュエル (トルコ・カフラマンマラシュ県知事)

エミン・オズダマール (土日基金副理事長)

岡部 芳彦 (在神戸ウクライナ名誉領事)

【主な内容】

- ・カフラマンマラシュ県における創造的復興の取組、土日基金の復興支援について事例発表。
- ・来日できなかったウクライナ関係自治体に代わり、岡部在神戸ウクライナ名誉領事が、州知事からの書簡を代読し、ウクライナの現状報告と兵庫県への復興への支援に感謝を表した。



創造的復興の理念を繋ぐひょうご宣言



阪神・淡路大震災において生まれた創造的復興。それは、単に被災前の状態に回復するのではなく、より良い復興を目指す概念です。

新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震などの大規模災害からの復興にも受け継がれ、各地で安全・安心な社会づくりに向けた力強い歩みが進んでいます。

一方、我が国では南海トラフ巨大地震や風水害の頻発化・激甚化など、さらなる災害リスクに直面しています。こうしたなか私たちは、阪神・淡路大震災から30年を迎えたのを機に、それぞれの取り組みや課題を持ち寄り、創造的復興の継承に向けて議論しました。

1 阪神・淡路大震災からの復興

1995年1月17日、都市部に未曾有の被害をもたらした阪神・淡路大震災。

兵庫県、神戸市及び被災自治体では、県民や企業、行政などが心をひとつにして、誰もが安心して暮らせる成熟した地域社会の創造を目指しました。

都市基盤や住宅の復興はもとより、高齢者の見守り・自立支援、参画と協働によるまちのにぎわいづくり、ボランティア活動や芸術文化活動への支援などを、震災の経験と教訓として防災教育や被災地支援などを通じて伝えていきます。

2 大規模災害を経験した被災地での復興の取り組み

(1) 新潟県中越地震

中山間地域の産業やコミュニティ衰退の危機に見舞われた新潟中越地震。

被災地域の懸命の努力や多くのご支援により、着実に復興が進められました。震災メモリアル施設の活用や防災教育プログラムなどを通じ、その経験と教訓を次世代に繋いでいます。

(2) 東日本大震災

地震と津波による被害に加え、原発事故の引き金となった東日本大震災。2万2千人を超える方々が犠牲となった壊滅的な被害からの復興は今も進められています。

岩手県と宮城県では、南三陸町での住まいの高台移転をはじめ、防潮堤や基幹道路、水産業生産基盤の整備など震災前よりはるかに強く、安心して暮らせるまちづくりを進めました。

福島県では、一時、全村避難となった飯舘村など、原子力災害による避難指示が今も続いている地域がある中、様々な困難を抱えながらも、生活環境の整備や、産業・生業の再生、営農の再開、新たな産業の創出など、復興の歩みを着実に進めています。

(3) 熊本地震

最大震度7の激震が短期間に2度発生し、長期的に余震が頻発した熊本地震。

熊本県では、速やかに明確な将来像を描き、「すまい」の再建など県民生活に深く関わる重点項目を定めて復興の加速化を図りました。

益城町では、住民との丁寧な意見交換を通して、創造的復興を進めています。

(4) 能登半島地震

2024年元日、地形的にアクセス手段が限られた半島地域で発生した能登半島地震。震災から間もない同年9月には奥能登豪雨が発生し、未曾有の複合災害となりました。

仮設住宅から恒久的な住まいへの移行など、生活と生業の再建が本格化するとともに、新たな能登の未来を創り上げる創造的復興に向けた歩みが進んでいます。

3 過去を学び、前に進むための挑戦

私たちは連帯して、大規模災害の経験と教訓を、未来をつくる力に変えていくことを宣言します。

(1) 創造的復興の継承・発信

復興の主体は被災地に住む人々、何より大事なものは、コミュニティの絆です。

地域住民が住んでいる地に愛着をもち、地域と関わり合う人たちとともに互いに助け合えることが災害に強い地域をつくり、にぎわいや活力を生む源となります。そのことで地域の魅力が高まり、“住みたい、帰りたい、ここで働きたい”と思える復興を遂げることができます。

被災自治体には、災害からしなやかに立ち上がろうとする人々を支え、民間とも連携して、地域の特性や資源を活かしながら新たな価値を創造することが求められます。

こうした理念を世代や地域を超えて継承・発信していきます。

(2) 緊急時に結びつく日常の備え

誰もが被災しうる我が国において、私たちは連帯と分かち合いで被災地を支えます。

こうした自治体間の支援を通じて他の被災地の経験を学ぶとともに、官民が一体となり、避難生活の環境改善に向けた新技術の導入、家庭や地域での防災力の強化、防災教育などに取り組み、次なる災害に備えています。

私たちの経験や備えはそれぞれが積み重ねるだけではなく、不断の見直しを行い、全国各地に広げて活性化していくことが大切です。

ひとりの備えがみんなの力につながるよう、社会全体に根づかせていきます。

2025年9月20日

兵庫県 神戸市
新潟県
岩手県
宮城県 南三陸町
福島県 飯舘村
熊本県 益城町
石川県 珠洲市

○関連イベント

【1. 高校生・大学生による活動報告会】

1 日時・場所

令和7年9月20日（土）10:00～11:45
神戸ポートピアホテル「和楽」の間

2 プログラム・内容

(1) 主催者挨拶

齋藤 元彦 兵庫県知事

(2) 高校生・大学生による活動報告

【司 会】竹内 舞桜（武庫川女子大学附属中学校高等学校）

【発表者】宮田 七海、広岡 彩佳、森田 寧々（兵庫県立舞子高等学校）、向笠 祥史（宮城県多賀城高等学校）、中村 輝人（石川県立輪島高等学校）、岩尾 正貴、田中 萌楓（神戸学院大学）、芦田 悠真、湯木 喜久（兵庫県立大学）、佐藤 稜真、栗山 拓斗（東北学院大学）

【主な内容】

・参加校それぞれの取組や学生個人の防災活動の取組について発表。

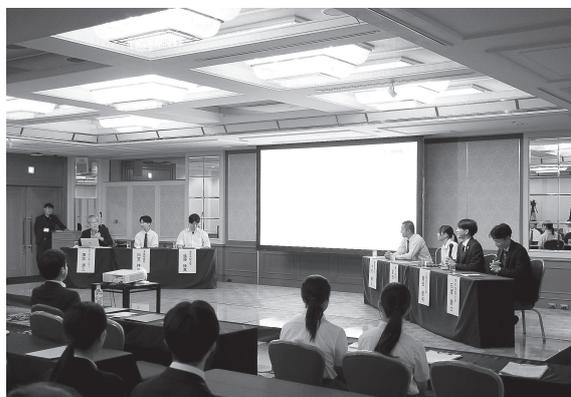
(3) パネルディスカッション

【ファシリテーター】諏訪 清二（兵庫県立大学客員教授、防災学習アンバサダー・コラボレーター）

【発表者】宮田 七海（兵庫県立舞子高等学校2年）、向笠 祥史（宮城県多賀城高等学校2年）、中村 輝人（石川県立輪島高等学校3年）、石塚 碧士（神戸学院大学3年）、島田 都羽（兵庫県立大学3年）、佐藤 稜真（東北学院大学3年）

【主な内容】

・参加校代表1名が登壇し、災害の経験と教訓を世代・地域を越えて、いかに継承していくか、について議論した。
・議論の中で、「震災を経験していない私が伝えてもいいのか、という葛藤があったが、今は繋いでいくことが大事だと考え、積極的に活動している」との発言があった。



【2. エクスカーション】

1 日時

令和7年9月20日（土）9:10～11:30

2 参加者

服部 洋平（兵庫県副知事）、馳 浩（石川県知事）、吉本 秀一（益城町復興整備課長）、森川 博（益城町危機管理課長）、澤井 麻里（国際防災機関（UNDRR）政府間プロセス機関間協力及びパートナーシッププログラム管理担当官）、ミュケッレム・ウンリュエル（トルコ・カフラマンマラシュ県知事）、エミン・オズダマル（土日基金副理事長）

3 視察行程

- ・ 阪神高速震災資料保管庫（神戸市東灘区深江浜町 11-1）
- ・ 人と防災未来センター（神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2）
- ・ 神戸酒心館（神戸市東灘区御影塚町 1-8-17）



阪神高速震災資料保管庫



人と防災未来センター



神戸酒心館



集合写真